

令和5年度 年間指導計画

A動物10

A科:動物科学科 B科:植物科学科 C科:食品科学科 D科:人間科学科 E科:環境科学科

教科	農業	科目	地域資源活用	単位数	2	学年・学科	2学年A科
教科書	なし		副教材	実教出版「グリーンライフ」			

学習目標	<p>○地域資源の役割とそれを活用することの意味を考え、活用するための方法や技術を身に付けます。</p> <p>○地域の資源に新たな価値を見出し、農業振興や地域活性化にどのように役立てられるか考える力を身に付けます。</p> <p>○地域の課題を見つけ、課題解決のために仲間とともに主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けます。</p>
学習方法	<p>○座学では、バイオテクノロジーの概要や歴史、動物の解剖学的知識を身に付けます。また、具体的な技術に関する基礎的な知識を身に付けます。</p> <p>○実習では、座学で学んだ知識を生かしながら観察や見学を行います。また、簡単な実験により、動物の体内の観察を行います。</p>

	評価の観点	評価の観点の趣旨	学期	重み付け	割合	
					調査	調査以外
学習評価	a 知識・技能	農林業・農山村の特色や地域資源の活用に関する基礎的な知識や技術を身に付け、農林業・農山村の特色や地域資源の重要性を理解するとともに、技術を適切に活用している。	前期中間	30 %	25	5
			前期末	30 %	25	5
			後期中間	30 %	25	5
			後期末	30 %	25	5
	b 思考・判断・表現	農林業・農山村の特色や地域資源の活用に関する基礎的な知識や技術を身に付け、農林業・農山村の特色や地域資源の重要性を理解するとともに、技術を適切に活用している。	前期中間	40 %	25	15
			前期末	40 %	25	15
			後期中間	40 %	25	15
			後期末	40 %	25	15
	c 主体的に学習に取り組む態度(意欲)	農林業・農山村の特色や地域資源に興味・関心を持ち、農林業・農山村の現状や課題の改善を目指して、主体的に取り組もうとする態度を身に付けている。	前期中間	30 %	5	25
			前期末	30 %	5	25
			後期中間	30 %	5	25
			後期末	30 %	5	25

学期	単元名 (題材)	学習内容 (小単元)	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	1 マリーゴールドの活用 (プロジェクト活動①)	1 マリーゴールドの活用方法と栽培方法	○	○	○	<p>・マリーゴールドと大豆の性質、特性を理解し、それらの活用方法について意欲を持って調査できる。</p> <p>・農山村と都市部の比較を見直し、そこから生み出される資源の開発などについて地域の活性化の変化とその要素が理解できる。</p> <p>・国や地方自治体で行っている施策について理解できる。</p> <p>・地域の歴史をふまえた地域資源活用の事例について理解できる。</p> <p>・地域振興に向けた施策・取組について理解できる。</p>	授業プリント 実習レポート 実習態度 定期調査
	2 大豆の活用 (プロジェクト活動②)	2 大豆の活用方法	○	○	○		
	3 農山村社会の変化と地域振興						
	4 地域資源活用の意義と役割	3ア 農山村社会の現状と変化	○	○			
		3イ 地域活性化に向けた施策・取組	○	○			
		4ア 地域資源の魅力と価値	○	○			
		4イ 地域振興に向けた施策・取組	○	○			

前期末	1 マリゴールドの活用 (プロジェクト活動①)	1 マリーゴールドの栽培の実際	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・マリーゴールドの栽培方法について理解できる。 ・前年度の経験を生かし、大豆の栽培ができる。 ・農業の多面的特質の活用と異業種と連携した価値創造の事例について理解できる。 ・社会的起業家や地域活性化の核となる人材の実践例からその役割と課題について理解できる。 ・マーケット情報についてインターネットを利用し調査でき、SNSなどを活用した地域情報の発信方法について理解できる。 ・農の多面的機能を活用した観光について理解できる。 	授業プリント 実習レポート 実習態度 定期考査
	2 大豆の活用 (プロジェクト活動②)	2 大豆の管理	○	○	○		
	4 地域資源活用の意義と役割						
	5 地域資源の価値と活用	4ウ 異業種連携と商品価値の創造	○	○			
		4エ 地域資源活用の実践と課題	○	○			
		4オ 情報の活用と発信	○	○			
後期中間	1 マリゴールドの活用 (プロジェクト活動①)	1 マリーゴールドの収穫と利用	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・マリーゴールドと大豆を実際に活用できる。 ・農業の多面的機能を活用した商品の開発について理解できる。 ・直販所や農家レストランの開設や運営について、ワークショップの運営などについて理解できる。 ・食農教育や農福連携の必要性、これらを活用した地域活性化について理解できる。 ・地域へのニーズや地域ブランドづくりについて理解できる。 	授業プリント 実習レポート 実習態度 作品 定期考査
	2 大豆の活用 (プロジェクト活動②)	2 大豆の収穫と利用	○	○	○		
	5 地域資源の価値と活用						
	6 地域と連携した活動	5イ 商品開発への活用	○	○			
		5ウ サービス業への活用	○	○			
		5エ 教育・福祉への活用	○	○			
		6ア 地域資源のマーケティングとブランドづくり	○	○			
	6ア 地域資源のマーケティングとブランドづくり	○	○				
後期末	1 マリゴールドの活用 (プロジェクト活動①)	1 マリーゴールドを活用した製品の商品開発(疑似体験)	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・制作・加工した製品をもし販売することになったら仮定し、マーケティング、ブランドづくりなどを行う。 ・地域資源を活用したサービス分野のマーケティングについて理解できる。 ・農業のユニバーサルデザインについて理解できる。 ・地域の振興と活性化活動を、プロジェクト学習を通して理解できる。 ・プロジェクト学習を通して、起業の方法や六次産業化の意義について理解できる。 	授業プリント 実習レポート 実習態度 作品 定期考査
	2 大豆の活用 (プロジェクト活動②)	2 大豆を活用した製品の商品開発(疑似体験)	○	○	○		
	6 地域と連携した活動						
	7 地域資源活用の実践	6イ 地域資源を活用したサービス	○	○			
		6ウ 農業のユニバーサルデザイン化	○	○			
		6エ 地域振興活動と評価	○	○			
		7 地域資源活用実践の方法	○	○			